Japan Geoscience Union Meeting 2010
(May 23-28 2010 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2009. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

OES005-06 会場: 302 時間: 5月23日13:45-14:05

島原半島ジオパーク課題と展望

A future view of the Unzen Volcanic Area Geopark and the problems in present

杉本 伸一[1*]

Shinichi Sugimoto[1*]

[1]島原半島ジオパーク推進連絡協議会

[1]Unzen Volcanic Area Geopark

ジオパークの取組みの経緯
島原半島がジオパークを目指すきっかけの一つに、島原市が日本火山学会とともに2007年に開催した『火山都市国際会議』の成功が挙げられる。数百人の海外参加者の受入を伴う国際会議の開催は、大都市でなければ困難と考えられていたが、学術、行政、地元ボランティアの連携や、雲仙火山・島原半島の魅力的な地質資源により、会議参加者から高い評価を得た。国際会議など経験のない地方都市で、大丈夫だろうかという不安は大会の成功とともに自信に変わった。また、外からの目を通じて地域をあらためて見直す機会ともなった。
普賢岳噴火災害に官民一体となり加えて全国からの支援などによって復興に取り込んだ経験や、災害や国際会議の体験を生かし、研究者・行政・商工関係者や一般市民・ボランティアによる連携と盛り上がりを、さらにジオパークに生かそうというものである。

島原半島ジオパーク推進連絡協議会
世界ジオパークネットワーク（ＧＧＮ）の加盟を目指して、島原半島ジオパーク推進連絡協議会が、2008年2月に設立された。会員は、ジオパークの範囲にあるすべての地方自治体(島原市、雲仙市、南島原市及び長崎県)並びに目的に賛同し活動及び事業に協力できる団体として、商工・観光団体、公的団体、博物館的施設、ガイド団体、地元マスコミなどによって構成されている。協議会においては、主要ジオサイトへの解説板の設置などジオサイトの整備を行うとともに、地質遺産などを生かした教育・普及活動を行ってきた。また、地質遺産を観光するジオツアーについて、地元住民を対象にしたジオツアーを開催しそのノウハウを生かしたコース設定などを行ってきた。また、皆様を案内するためのガイド養成も行っている。

GGNによる現地審査と指摘事項
　2009年8月14日～17日、ＧＧＮの現地審査が行われた。イギリスのノースペニーズジオパークから2名の審査員が訪れた。現地審査の内容は、主として次のようなものであった。
①加盟申請書内容の確保
②ジオサイトの保護方策
③ジオツーリズムの活動状況
④ジオの恵みを活用した地元産業の現状など
　審査の結果、ＧＧＮへの加盟が認められたが、その際に次のような勧告が行われ、改善が求められている。
①ジオパーク基本計画と実施計画は延滞なく完成されるべきである。

②展示資料の見直しを行うこと。未解説の専門用語を使うのは避け、展示資料を適切に配置すること。（資料は教育のためでなく、観光やレクレーション客のために準備されるということを忘れないこと）
③施設間の連携が乏しい。
④島原半島ジオパーク推進連絡協議会で働くジオパーク事務局のスタッフが、より強いアイデンティティを持って取り組むことができるように手を打つめきである。

ＧＧＮのメンバーとなったジオパークについては、４年以内にジオパークの管理運営状況の再審査が行われることとなる。加盟するジオパークから提出された進捗状況報告書に基づき、ＧＧＮの最新ガイドラインの基準を満たしているかどうかの審査が行われ、基準を満たしていない場合はメンバーとしての権利を剥奪されるのである。改善事項は最優先で取り組むこととなる。ＧＧＮへの加盟は決してゴールではない。スタートなのである。

ジオパークの展望
島原半島地域には、豊富な地質遺産、自然、歴史遺産、あるいは雲仙岳災害記念館や雲仙お山の情報館など多くの施設があるものの、総合的な活用やネットワーク化はまだ十分とは言えない。しかし、「ジオパーク」は、それらの問題点を解決する起爆剤となりうるかもしれない。雲仙火山という地域住民の生活に長い間大きな影響を与えてきた地質遺産を活用しようというジオパーク推進の試みは、三市、県、民間組織一体となった地域振興のありかたに新しい光を放つことになると信じている。
また、島原半島のジオパーク運動では、観光に大きな光があたる傾向にあるが、ジオパークの野目的は、保護保全、教育、経済開発である。保護保全や教育があってさらに観光があると思う。このような中、島原半島の教育現場でもジオパークに対する新たな動きが出始めている。小中学校などでの大きなうねりが、持続的なジオパークの大きな力となるよう努力していきたい。